

幼児教育をめぐる国際的動向について

- 1 幼児教育の意義と保育の質
- 2 カリキュラムや評価等政策の意義と重要性

秋田喜代美
(学習院大学)

1 幼児期の教育の重要性に関する論点

- ・海外においては長期縦断研究とそのメタ分析としての展望研究から、幼児期の教育がその後の生涯にわたる学業達成、職業生活、家庭生活等で多面的に影響を与えることが実証的に明らかにされてきている。
- ・中でも、幼児教育を受けるというだけではなく、そこでの「保育(教育)の質」が発達に与える影響が正負いずれの影響も及ぼすことも示されてきている。
- ・日本では、エビデンスベースの長期縦断研究は、これまで十分ではない。ただいくつかの研究からはそれらを支持する方向での知見は示されてきている。

幼児教育・保育の質に関するOECD（経済協力開発機構）の研究

○質の高い幼児教育の効果

- ・質の高い幼児教育・保育は、言語の使用やアカデミックスキルの芽生え、早期の識字および計算、**社会情緒的スキル**などといった様々な領域の子供の早期発達とその後の就学後のパフォーマンスにとって有益であることが指摘。このほか、健康的な摂食習慣や身体活動習慣の定着の後押し等、健康・ウェルビーイングにも効果が及ぶ。
- ・質の高い幼児教育・保育サービスは、労働市場への参加、貧困の削減、異なる世代間の社会的移動性及び社会的統合の向上など、**子供のその後の人生における成果にもつながるというエビデンスが増加。**

○幼保小接続における教育（指導）の継続性の意義

- ・カリキュラムの一貫性や継続的な幼保小接続の取組は、その後の子供たちの学力や社会的成長と関連していると指摘。
- ・幼保小のカリキュラムに一貫性を持たせること、**幼保小の間の教育内容の理解の共有、幼保小の指導の連続性が取り組むべき課題**であると指摘。

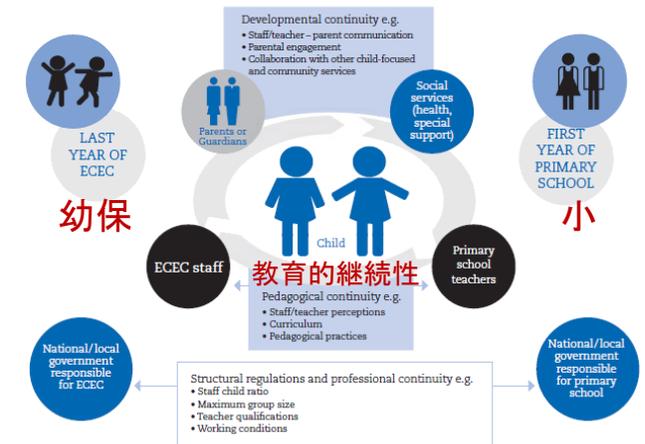
○幼保小接続の取組の各国のトレンド

- ・**幼保小接続は各国でも大きな関心事**。政府の戦略や政策文書に含まれることが増加。
- ・**幼保小接続強化のためのカリキュラム改革や幼保小接続を容易にするための幼児教育・保育施設の一体化の取組**等について紹介。

○日本の保育者の社会情緒的な実践、保護者とのコミュニケーションの充実

- ・日本の保育者は、**社会情緒的な要素を含む子供の発達に関する内容や学び・遊びの支援に関する内容**について、**継続的に専門性の向上を図っている割合が非常に高い。**
- ・日本では、**保護者とのコミュニケーションを日常的、定期的**に実施している割合がともに高く、**国際的に見ても、幼児教育・保育施設が保護者とのコミュニケーションを重視。**

Figure 6.1 Multiple factors and connections are at play in transitions



＜過去1年の専門性向上のための日本の保育者の活動実施割合＞（％、順）		
	子供の発達	学び・遊び支援
日本	83.9 (2)	77.2 (2)

＜保護者とのコミュニケーションの実施割合＞（％、順）		
	非公式（毎日）	公式（月1以上）
日本	74.7 (3)	96.5 (1)

Caring, Sharing, Daring

SOCIAL-EMOTIONAL
DEVELOPMENT AT
AGE FIVE



Caring, Sharing, Daring:

**SOCIAL-EMOTIONAL
DEVELOPMENT AT
AGE FIVE**

アメリカ、イギリス、エストニアの
5歳児7000名、保護者、保育者
に対する調査結果社会感情動的
スキルの発達の重要性を述べた
報告書。

5歳児の認知能力、非認知能力
の関係の実証的研究が実施され
ている。

(OECD、2021)。

幼児期の教育はその後のアウトカムを予測することが先行研究で国際的に示されてきている(OECD,2021)



初期読み書き

初期数経験

自己調整

共感や信頼を含む社会的スキル

問題を起こす行動をしないこと

学校での学業達成

健康のアウトカム

自己報告でのWELL-BEING

成人期の社会経済的地位

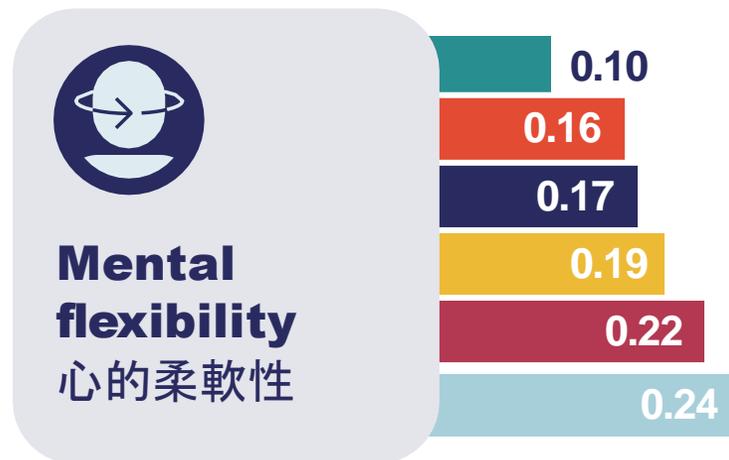
初期読み書き	+++	++	+	++
初期数経験	++	++	n/a	+
自己調整	+++	++	+	++
共感や信頼を含む社会的スキル	+	+	+	=
問題を起こす行動をしないこと	++	+	+	+



5歳時点において社会情動的発達は認知スキルと関係している



数値は各測定値間の関係を示しておりグラフの棒の長さが長いほど関係があることを示している。



- Key**鍵となる指標
- 問題行動をしない
 - 自信
 - 信頼
 - 社交性
 - 共感
 - 好奇心

幼児教育に参加した子供は、より自信をもって大人と共に行動する傾向がある

56% of children

の幼児教育に参加した子は46%の通園していない子に比べて大人と常・頻繁に大人に対しても自信をもった行動ができる。



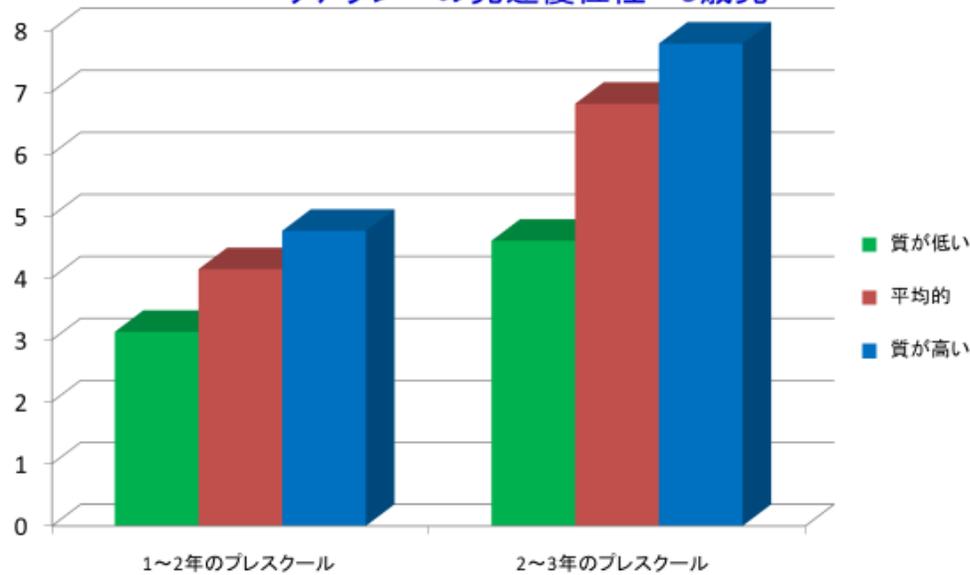
49% of children

は通園していない子と比べて動揺した時にもそうでない42%の子に比べて大人に対して慰めを求める傾向がある。



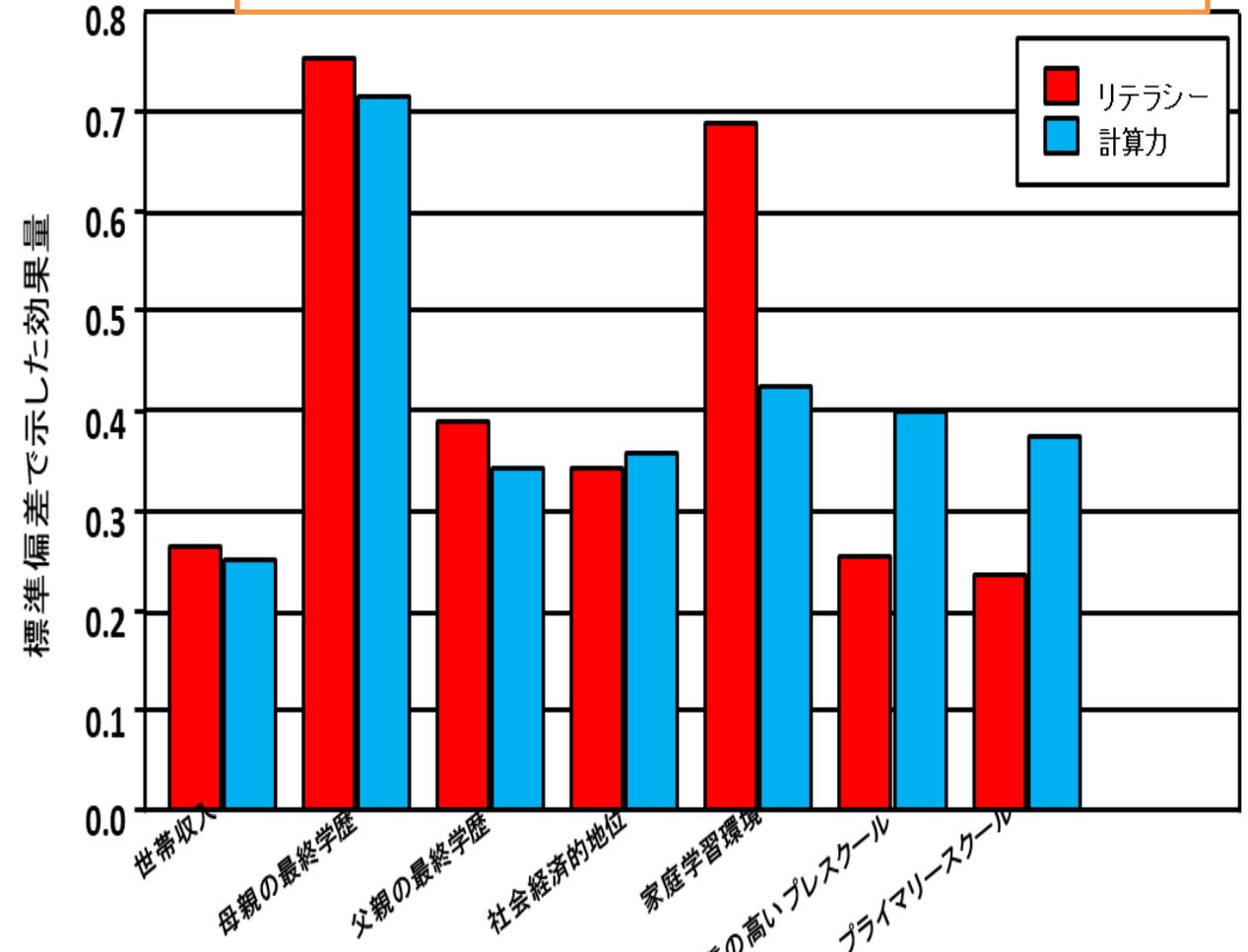
質の影響①保育の質と通園期間が影響する

英国 - 長期的調査 - 3000人以上の子ども
 教育の質と期間の重要性
 リテラシーの発達優位性 - 5歳児



27

11歳になっても残る効果

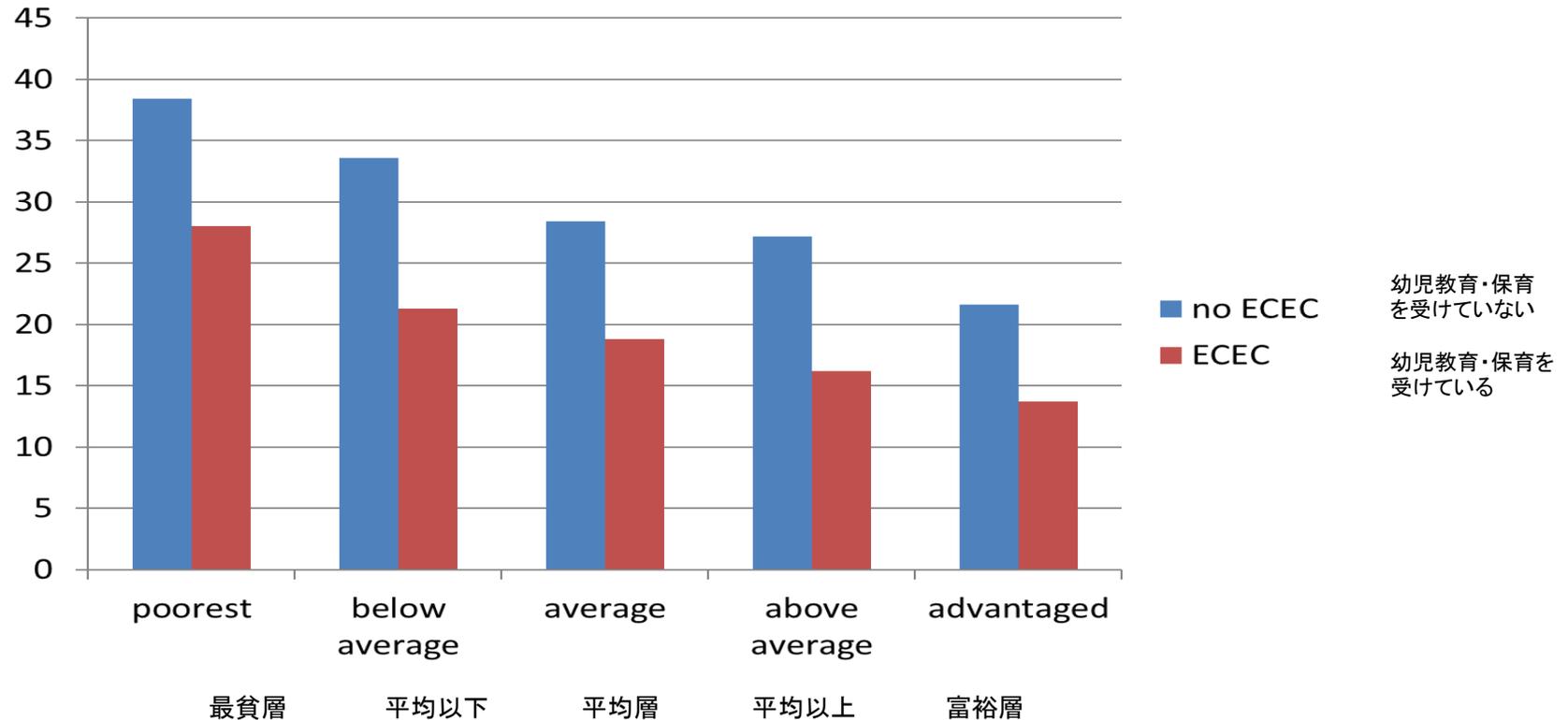


質の影響 ②質が下がると発達に悪影響がある

カナダ ケベック州の例

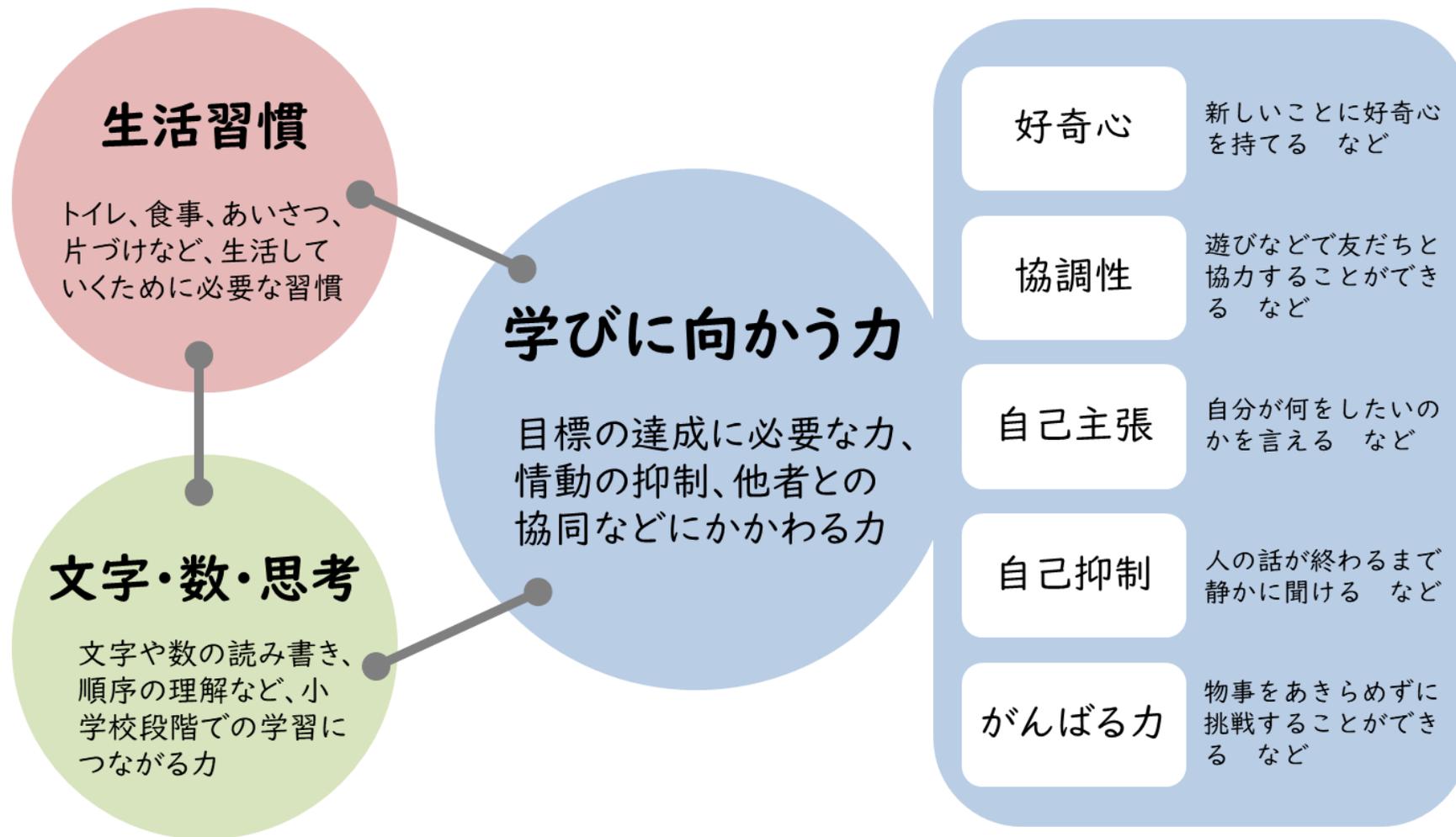
- 1997年幼児教育の利用料引き下げによる保育所の利用の増加この制度変更の対象になった児童らが20代になった後の非認知能力、健康、生活満足度、犯罪関与にマイナスの影響を与えた。(男子での攻撃性、多動)ここからは幼児期の教育は、マイナスの効果も長期にわたって持続することを示唆する。
- その理由として、利用料の引き下げによる保育所の増加によって保育の質が低下したことがその一因と論じられている。(ただし他の要因からの解釈もある)。

質の影響 ③所得層別の発達遅延率を幼児教育がリスクを下げる

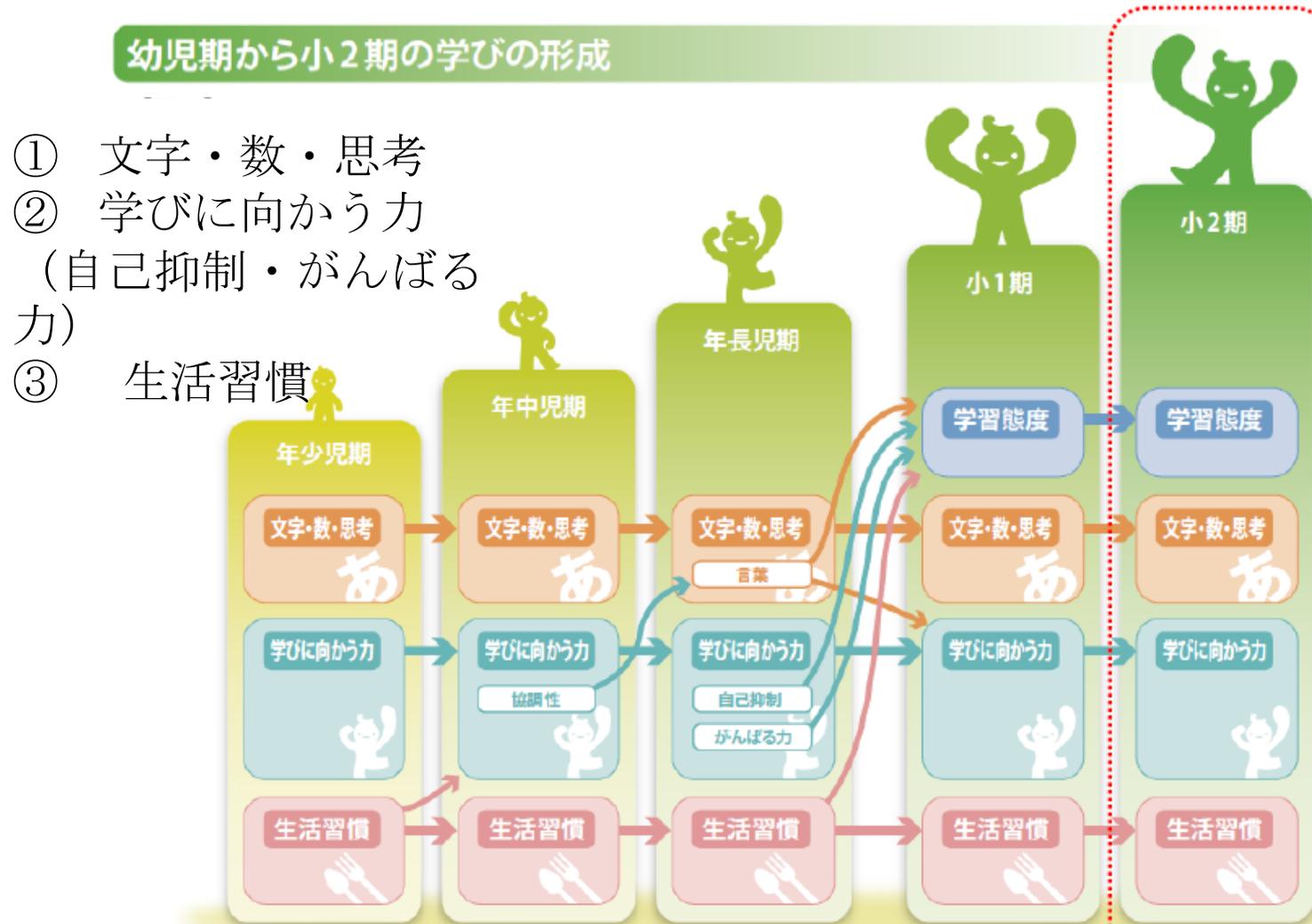


◆我が国ので縦断調査 幼児期に大切な3つの育ち

- **学びに向かう力**は、**好奇心、協調性、自己主張、自己抑制、がんばる力**からなる



- 幼児の発達は順序性をもつ。幼児の育ちが学習態度の土台に



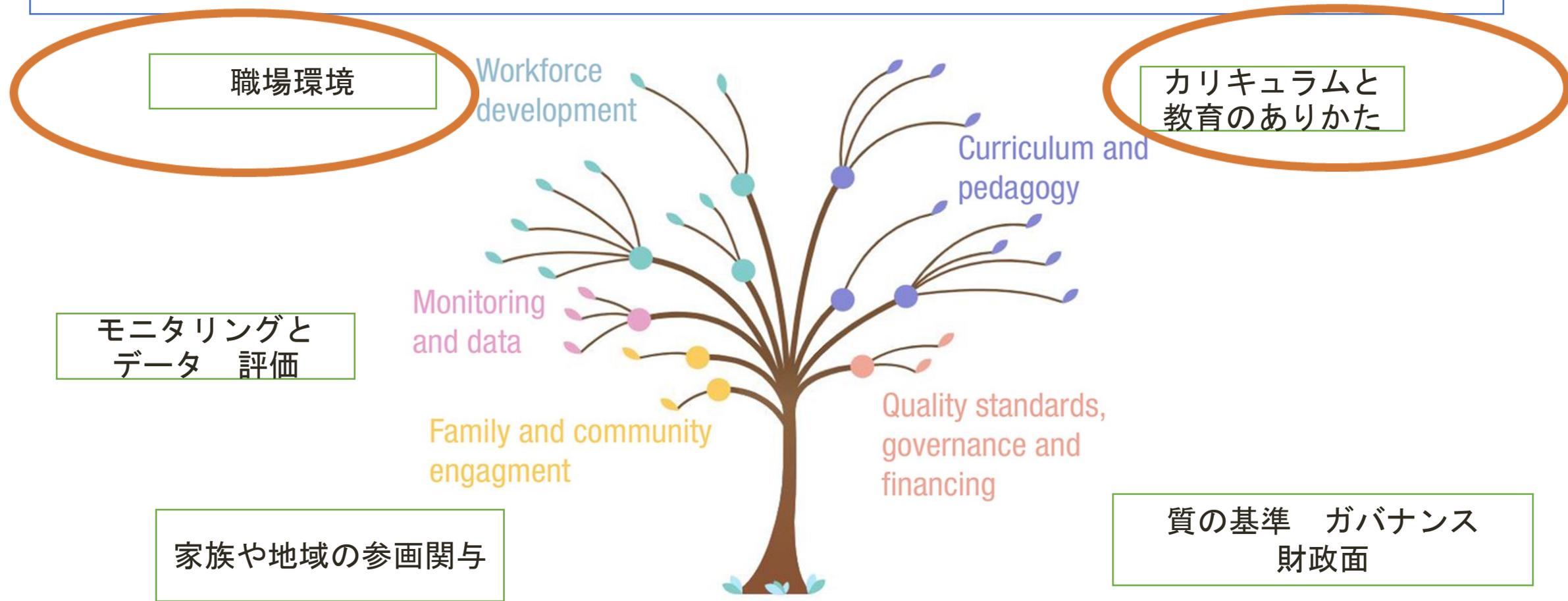
※小4までの調査の結果：

幼児期に『がんばる力』を身につけている子どものほうが、小学校高学年での思考力が高い

2 カリキュラム等政策の意義と重要性

- 各園において重要な点として、年齢を貫く乳幼児期の1本化したカリキュラム、施設類型を超えて統一したカリキュラムの実施ならびに職場での研修や学習の内容や時間の保障が重要であることが指摘されてきている。
- また質の向上のためには、カリキュラム実施とその実施等への評価・監査が重要である。ただし、カリキュラムの在り方は国によって社会文化的な歴史によってかなりの違いがみられる。

保育の質：園レベルでは特にカリキュラムと保育者の研修（赤丸）が重要（OECD,SSVI 2021.6）



カリキュラムフレームワークが保育者と子ども、保護者のやりとりの強力なツールである

- 0-2歳よりも3-5歳での参加がより mandatory (義務、必修) 課されてきている。
- 参加国のうちおよそ25%しか同一年齢で単一(統一)カリキュラムとはなっていない。
- 参加国(自治体)の14%では0から2歳ではカリキュラムはなかった。

0-2歳のカリキュラムの欠如は幼児期への移行をより困難なものにする可能性がある。

同年齢での複数のカリキュラムは園を通してのECECの質の相違を結果として生み出すことになる。

Country/jurisdiction	Ages covered by ECEC curriculum framework(s) ¹	Common curriculum framework(s) across age groups and settings ²	Single curricula per age group ³
Australia	All ECEC ages	Yes	Yes
Belgium – Flanders	All ECEC ages	No	Yes
Canada - Alberta	All ECEC ages	Yes	Yes
Canada - British Columbia	All ECEC ages	Yes	Yes
Canada - Manitoba	All ECEC ages	No	Yes
Canada - New Brunswick	All ECEC ages	No	No
Canada - Nova Scotia	All ECEC ages	Yes	Yes
Canada - Ontario	All ECEC ages	Yes	Yes
Canada - Quebec	All ECEC ages	Yes	Yes
Canada - Saskatchewan ⁴	All ECEC ages	Yes	Yes
Chile	All ECEC ages	Yes	No
Czech Republic	Only ages 3 to 5	No	Yes
Denmark	All ECEC ages	Yes	Yes
Estonia	All ECEC ages	Yes	Yes
Finland	All ECEC ages	No	No
France	Only ages 3 to 5	No	Yes
Germany - Bavaria	All ECEC ages	Yes	Yes
Germany - Berlin	All ECEC ages	Yes	Yes
Germany - Brandenburg	All ECEC ages	Yes	Yes
Germany - North Rhine Westphalia	All ECEC ages	Yes	Yes
Iceland	All ECEC ages	Yes	Yes
Ireland	All ECEC ages	Yes	Yes
Israel ⁵	Only ages 3 to 5	No	Yes
Japan	All ECEC ages	No	No
Luxembourg	All ECEC ages	No	Yes
Mexico	Only ages 3 to 5	No	Yes
New Zealand	All ECEC ages	Yes	No
Norway	All ECEC ages	Yes	Yes
Portugal	Only ages 3 to 5	No	Yes
Slovak Republic	Only ages 3 to 5	No	Yes
Slovenia	All ECEC ages	Yes	Yes
South Africa	All ECEC ages	Yes	Yes
Switzerland	All ECEC ages	No	No
Turkey	All ECEC ages	No	No
United Kingdom - England	All ECEC ages	Yes	Yes

幅広い年齢と施設類型
をカバーしている

特定の年齢や施設類型
がバ

0 – 2歳はカリキュラム
でカバーされていない

一つのカリキュラムで
すべての年齢や施設間
を統一

同一年齢や年齢をつな
ぐカリキュラムが複数
で統一されていない

SSVIにおける幼児教育に関する主な指摘

- 子どもの全人的発達は、すべての年齢をカバーし発達の各段階にふさわしいカリキュラムを通して確かなものとすることができる。
- すべての施設類型の保育者の幼児教育における教育の質規準を上げることが重要である（e.g. 職場での学習,カリキュラムの実施等を含むメカニズム）。
- 子どもと向き合う活動以外の時間を勤務時間内に保障することで現職研修（professional development）に参加することが重要。

質評価のための政策の一例英国（主にイングランド）

- 説明責任の重視、根拠（エビデンス）に基づく政策の導入と効果検証
⇒納税者と保護者への情報公開の徹底・保育の質と子どもの発達に関する長期縦断調査
- 「就学へのレディネス（準備性）」のための教育と学びの重視
- 社会経済的に不利な家庭の子どもへの教育機会の保障としての保育
- ケアと教育の法制上の一体化、教育省による所管

就学前に到達すべき「乳幼児期の学びの目標(ELG)」に基づくカリキュラム(EYFS)と子どもの発達の評価及び施設の監査

乳幼児期基礎段階
(EYFS: Early Years Foundation Stage)
 0-5歳未満児対象のナショナル・カリキュラム
 (全保育施設に実施を義務づけ)

乳幼児期の学びの目標(ELG: Early Learning Goals)

領域	内容
コミュニケーションと言葉	リスニングと注意、理解、スピーキング
身体的発達	動作と操作、健康と自己ケア
個人的・社会的・情緒的発達	自信と自己認識、感情と行動のマネジメント、関係性の構築
リテラシー	読み書き
算数	数、図形、空間、量
世界への理解	人とコミュニティ、世界、技術
表現のアートとデザイン	メディアや素材の探求と活用、想像的であること



子どもの発達の評価

- ◆ ドキュメンテーション・アセスメント
 観察・写真・ビデオ・作品・保護者からの情報
 ⇒日々の個別保育計画の作成に活用
- ◆ スケール・アセスメント
 2〜3歳(Progress Check)保育者または保健師が実施
 ⇒家庭での学びの支援を保護者と話し合う際に活用
 5歳になる年の年度末(EYFS Profile)保育者が実施
 観察・記録・保護者との話し合い・他の専門家の意見を踏まえ、保育者がELGに即して到達度を数値で示す
 ⇒小学校に提出し、教師との話し合いに活用
 政府で集積し、保育政策の根拠として活用

準政府機関(Ofsted)による施設監査

- ◆ 登録⇒査察⇒評価⇒結果公開
 保育施設の情報・保育者と子どものやりとり及び子ども2名の観察・自己評価フォームに基づく施設長への聞き取り・保護者からの聞き取り(近年はより自己評価重視に)
 ⇒不適切評価の場合、改善策を通知し、フォローアップ

評価をめぐる政策課題と動向

- 地域や保育現場の多様性や自律性の尊重と格差の解消・是正に向けた公的な関与・介入のバランス

統一的なカリキュラム・
評価の体制



地域・現場・個々人の
選択や判断に依拠する仕組み

保育を捉える視点が限定的なものになることや現場の多様性が失われることへの批判や懸念
(ニュージーランド・英国)

質のばらつきや格差の拡大
(アメリカ・ドイツ)

- 保育及び発達のプロセスの評価の重視
 - ・ 到達度評価から教育・研修の本質へのシフト(英国)
- 評価の実施に対する現場の負担感と形骸化への懸念
- 評価者の立場や専門性を踏まえた評価の妥当性・信頼性・中立性の担保
 - ・ 学校教育の視点から評価が行われた場合、ケアの側面が十分正当には評価されない可能性(スウェーデン)
 - ・ 質認証で収益を得る企業が評価を行う場合、厳密な評価が実施されない可能性(ドイツ)

まとめにかえて

- 海外においても質向上のためにカリキュラムの重要性が言われてきている。日本の幼児教育は、遊びを通じた学びによって、子どもの社会情動的側面と認知的側面の育成を可能としてきている。
- 今後は幼児教育の無償化を通して、施設類型に関わりなく、さらにその遊びの経験を深めていくとはどのようなことであるのかという点において、保育者が各園を基盤に、現職研修を通してカリキュラムの理解を深め質の向上へ向けた実践ができるような政策的支援が重要である。
- 特に5歳児においても幼児期から児童期への教育の連続性の保障のために幼児期に培った遊びや暮らしの中での気づきから探究へという学びのプロセスが、幼児期に保障されさらに小学校1年生以降にも保障されていくための連携と接続が重要と判断される（参照 参考資料）。

子どもの気付きを膨らませ、遊びの続きを支える保育教諭の援助

遊びや生活の中で大切にしていきたい姿 ~ 探究をキーワードとして ~

愛着	信頼	安心	探索	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	7 歳児

おもしろい!! もっとやりたい (子どもの気付き)		保育教諭の関わり			
遊びを続ける子どもの思い	・なんか(なんどなく)気になるな ・あれ なんだろう おもしろそう ・なんで? どうしてこうなるの? ・もう一回 もっともっと ・またやってみたい ・楽しいな おもしろいな ・みてみて ・こんなことができるよ ・僕(私) っすごい ・あれやろう 楽しみだな ・これで遊びたい ・できた うれしいな ・〇〇みたい ・〇〇になっちゃった ・こうしたらもっとおもしろいかも ・あった みたいけた ・わぁ不思議 ・いいこと思いついた ・〇〇のようにになりたいな ・もっとこうしたい ・次はこうしてやってみよう ・どれがいいかな ・組み合わせはどうか ・他に方法はないかな ・こうしたらどうなるのかな? ・こうなるんじゃないかな ・次はこうしてみたらどうか ・僕(私)はこうしたいんだ ・上手くないかな どうして ・いい考えだね	興味・疑問 繰り返し・充実感 向上心 期待・意欲 見立て・想像 類推・推測・発見 挑戦心 比較・試行錯誤 予測・提案 願望・葛藤 ・つながり	一人一人の遊びの面白さを感じ取り、一緒に「あれ?」という気付きに心を通わせていく 事例1 音、動き、リズム、テンポ、強弱などを保育者と一緒に面白ながら、楽しさの経験を増やしていく 一人一人の「みてみて」にボディランゲージを交えて応えていく 新しいアイテムなど、子どもの目を惹きやすい物や素材を視界に入る場所に用意しておく お気に入りの物を身に着けたり、持ち歩いたりできるように、一人一人の思いが満たされる物や量を整えておく 子どもならではの不思議さを感じる感性や感覚を豊かにする時間と空間を保障していく 子どもに合わせて同じように動き、子どもの冒険心を共に楽しんでいく 同じ場所や環境に、色、形、音、質や量の違いを五感で感じとれる素材を用意し、環境を潤す 感動や偶然の発見に寄り添い、その子が捉えたものを一緒に受け止める 望ましい行動を指示して、思いを抑えるのではなく、子ども同士の感情を出し合えるための仲立ちをする	試すことができる素材や道具を用意し、子どもと同じ目線で同じことをして共感的にかかわる 安心して遊びだせるように、気に入っている遊びの場を残し、いつでも手にとれるように用具を整えておく 事例2 嬉しい気持ちをキャッチし、自ら子どもたちの傍に駆け寄り、喜びを分かち合っていく 事例3 一人一人の遊びのイメージを理解し、その子の世界観で楽しめるような表現方法や言動で関わる 事例4 憧れを形成するモデルとしての役割を意識し、事物との新たな出会いを生み出す 予想される遊びだけでなく、好奇心をもって遊ぶ姿からの発見・ひらめきを共有していく 安定の振り所となりながら、子どもと共に同じものに向かったり、同じ目線に立って見つめたりする 自由な発想で見えて触れて比べられるように、季節の自然物などを身近な所に用意しておく 無意識に性質や不思議さ、面白さに気付いている姿を捉え、体験している過程を言葉で添える 一人一人の思いを保育者が整理し、言葉にしなが受け止めていく	本物との出会いを大切に、子どもの気付きを広げていくために、絵本や図鑑を用意していく 自分たちで自由に動かしたり変化したり、つなげたりできる用具の充実を図る 子どもの要求に応えながら、子どもの遊びの面白さに気づき遊びの仲間となっていく やりたいことに向けて、実現できる方法と一緒に考え、育ちにあった経験を充実していく 可塑性のある素材や形、大きさ、長さの違う教材を用意し、子どもたちの多様な見立てに心を通わせる 事例5 変化を楽しめる教材との出会わせ方を充実し、一人一人の発見をみんなの感動につなげていく 事例6 その子の考え、やろうとしていることを理解し、思いのまま試していけるように支えていく 事例7 より詳しく知りたいと思う気持ちを生かし、関係する事物の写真や地域人材を活用する 行き詰っている姿を見定めて、時にヒントやアイデアを提案する 事例8 一つの疑問を周囲へつなげ、一緒に確かめようとする 昨日の遊びから今日の遊びへのつながりを踏まえて、必要な教材などを予測して準備しておく 今までは違う素材や道具を用意し、新たな遊びを創り出していく姿を認めていく 感動や努力、工夫などを温かく受け止め、励ましたり、手助けしたり、相談相手になったりする より本物に近づけるよう、実体験を生かしたり、細部まで工夫しているかわりに着目したりし、共に追求する 自分の発想を活用しながら遊び出せるように、必要な場や材料と一緒に考えていく 考え、工夫して何度も繰り返す過程を捉え、一人一人のよさが友達に伝わるように認める 環境の中にあるそれぞれの物の特性を生かしつつ、探究心を引き出す状況をつくる 事例9 物の性質や仕組みの気付きなど、子どもが考えた仮説を実際に確かめながら共に検証していく 事例9